

性の多様性について考えよう～誰もが自分らしく生きられる社会へ～

いろいろな性のあり方

人間の性(セクシュアリティ)は「男性」と「女性」の二つのパターンに分けられるほど単純なものではありません。自分の性をどのように認識しているか、どの性別の人を恋愛対象にするかは、人それぞれ違います。多様な性のあり方を理解するとき、人間の性をつぎの3つの要素(*1)に分けて考えることができます。

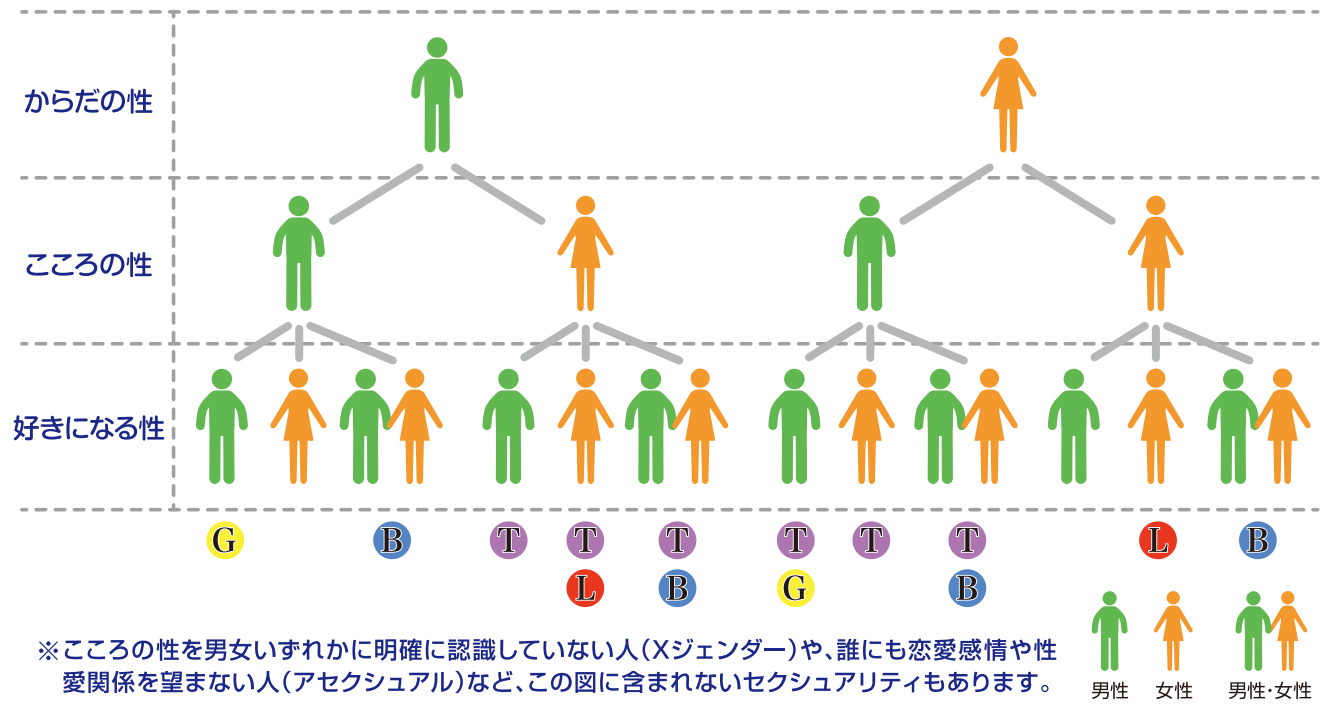
からだの性(生物学的性)	身体的な男女の性別、生まれ持った性
こころの性(性自認)	自分の性別をどう認識しているかということ
好きになる性(性的指向)	どの性を恋愛の対象とするかということ

LGBTってなに?

からだの性とこころの性が一致しない人、好きになる性が同性(または両性)の人などを、セクシュアルマイノリティ(性的少数者)といいます。最近、新聞やテレビなどで見聞きすることの多い「LGBT」は、セクシュアルマイノリティを表す総称のひとつです。

- Lesbian** レズビアン 女性の同性愛者【こころの性が女性、好きになる性も女性】
- Gay** ゲイ 男性の同性愛者【こころの性が男性、好きになる性も男性】
- Bisexual** バイセクシュアル 両性愛者【男性も女性も好きになる人】
- Transgender** トランスジェンダー 【からだの性とこころの性が一致しない人】
*「性同一性障害」は、トランスジェンダーがホルモン療法や手術を受けるための診断名です。

セクシュアリティマップ



民間の調査では、20～59歳の8.9%、約11人に1人がLGBT等のセクシュアルマイノリティであるというデータがあります。(*2)これは左利き(約11人に1人)やAB型(約10人に1人)の人の割合とほぼ同じです。これだけ身近な存在にも関わらず、自分のまわりには「いない」と感じている人も多いのではないでしょうか。セクシュアルマイノリティの人が、今の社会でありのままの自分を表現して生きていくのは難しいのが現状です。差別や偏見、関係性が変わってしまうのではという不安からカミングアウト(*3)をせずに生活している人が多く、身近にいても見えにくい存在となっています。

(*1) 表現する性(服装、言葉づかい、しぐさなど)を加えて4つの要素で考える場合もあります。
(*2) 電通ダイバーシティラボ「LGBT調査2018」
(*3) 自分のセクシュアリティを他者に打ち明けること

LGBT等セクシュアルマイノリティの人が、生活の様々な場面で直面している問題について、セクシュアルマイノリティ支援団体「ハレルワ」さんに聞きました。

LGBTの人はどんな場面で困るの?

- 学校** 恋愛での悩みを誰にも話せないこと、トランスジェンダーの場合は、自分が自認している性で扱われないこと(ランドセルの色や制服、トイレ・更衣室などの男女分け)などがストレスとなります。また、それらの悩みを友人や身近な大人に相談できないことや、相談できたとしても受け入れてもらえず、いじめや不登校などに発展してしまうこともあります。
- 職場** カミングアウトできていないと「彼氏・彼女は?」「結婚は?」など、異性愛が前提での話題に合わせることにストレスを感じます。トランスジェンダーの場合、就職がなかなか決まらないことや、職場の理解が得られずに辞めざるを得ないこともあります。
- 親地域** 男・女らしさを結婚を強要されたり、カミングアウトをした場合に、「縁を切る」「育て方を間違えた」などと言われたりすることで、家に居場所がなくなってしまいます。また、同性のカップルで住んでいると、近所との関わりで二人の関係を伝えても大丈夫か、噂話をされないかなどの心配事があります。
- 法律・医療** 日本では同性婚が認められていないことから、配偶者控除が受けられない、住宅を買う際に共同名義にできない、保険金や財産の相続人になれない(相続できても高い税金がかかる)など、様々な不利益があります。医療面では法律上の家族でないパートナーの入院時の面会や手術等の同意者になれないこともあります。また、トランスジェンダーの場合、戸籍性の変更には身体的治療が不可欠ですが、健康面や金銭的なリスク、周囲からの理解が得られないなどの理由からハードルが高くなっています。

子供の頃から多様な性について学習する機会があること、周囲の人々へ相談しやすい環境があることが、いじめの被害者・加害者を減らし、不登校や孤立、自殺などを防ぐことにつながります。また、多様な性のあり方や家族形態、ライフスタイルがあるという意識を持つことは、LGBTなどのセクシュアルマイノリティ当事者だけでなく、様々なマイノリティ、全ての人が尊重される社会につながると思います。



●セクシュアルマイノリティ支援団体「ハレルワ」

2015年6月に発足した群馬県内初のセクシュアルマイノリティ支援団体。当事者の居場所づくりとして、当事者や理解者の交流会「ハレの輪」を毎月第4日曜日に高崎市内で開催。中高生から70代までの幅広い年代、様々なセクシュアリティの人、延べ400名以上が参加しています。また、行政・学校・企業などでの講演活動や、人権イベントなどでの展示・発表などを通して、性や生き方の多様性を伝えていきます。



「ハレルワ」ホームページ
<https://hareruwa.tumblr.com/>
ツイッター・フェイスブック・インスタグラムなど各SNSでも情報発信中!

年齢・性別・セクシュアリティ不問、自由な服装で参加できる「第1回ぐんまにじいろ成人式(LGBT成人式)」を平成30年8月に市民活動センター・ソシアスで開催。来場者・関係者を含め約70名が参加し、「成りたい人に成る」第一歩を踏み出しました。

セクシュアルマイノリティを理解・支援する人のことをアライといいます。

あなたも今日から「アライ」に!

- 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」などの差別的な言葉を使わない。
- 周囲の人が差別的な言葉を使って笑いのネタにしている時は、注意したりそっと話題を変える。
- カミングアウトされたら、「話してくれて、ありがとう」「何か困ってることない?」などの言葉をかける。また、本人の同意なく他人に言いふらしたりすること(アウトティング)は絶対にしない。

人それぞれ姿勢や考え方が違うように、性のあり方もグラデーションのように多様です。性のあり方を正しく理解し、互いの違いを認め合ったうえで、誰もが「自分らしく」生きられる社会をつくっていきましょう。